

問1 RPA ツールを利用した業務処理の自動化に関する監査について

近年、少子高齢化に伴う労働人口の減少、働き方のニーズの多様化などの課題に対して、企業などには働き方改革の推進が求められている。また、広域災害、感染症拡大などの状況下において、テレワークの活用も広がっている。

このような中、RPA ツール（以下、RPA という）を導入する事例が増えてきている。RPA を利用してソフトウェアロボット（以下、ロボットという）を開発することによって、これまで PC 上で人手を介して行っていた一連の業務処理を自動化することができる。また、RPA には、自動化したい業務処理の操作を記録する機能のほか、標準的な部品なども用意されているので、ユーザ部門でもドラッグアンドドロップなどの比較的簡単な操作でロボットを開発することができるという特徴もある。

一方で、ユーザ部門は、情報システムの開発、運用及び保守には必ずしも精通しているわけではない。したがって、ユーザ部門が RPA を導入してロボットを開発する場合、例えば、自動化の対象とする業務処理の選定を誤ったり、テストパターンが不足したりするなどのおそれがある。また、開発したロボットの運用管理、改変対応などの、運用及び保守体制・ルールなどが明確でないことから、ロボットが正しく稼働しなくなることもある。

システム監査人は、このような状況を踏まえて、RPA を利用した業務処理の自動化において、ロボットの開発、運用及び保守に関わるリスクを低減するためのコントロールが適切に機能しているかどうかを確かめる必要がある。

あなたの経験と考えに基づいて、設問ア～ウに従って論述せよ。

設問ア あなたが関係する組織において計画又は実施している RPA を利用した業務処理の自動化において、その概要と期待される効果、ロボットを開発、運用及び保守するための体制を、800 字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた業務処理の自動化において、ロボットの開発、運用及び保守に関わるリスクを低減するためには、どのようなコントロールが必要か。リスクと関連付けて、700 字以上 1,400 字以内で具体的に述べよ。

設問ウ 設問イで述べたコントロールが適切に機能しているかどうかを確かめるための監査手続について、700 字以上 1,400 字以内で具体的に述べよ。